

Brown Bag Seminar

No. 049

オンライン
録画期間限定公開
(Zoom)
登録はこちら



2022 **5.18** (水) 12:10 ~ 12:50

- 12:10-12:15 ◆ 演者紹介
- 12:15-12:40 ◆ プレゼン
- 12:40-12:50 ◆ 質疑応答

https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN_nv088WygSfk79FgrUlaw3g

【技術支援】九州大学 Q-AOS & TEMDEC

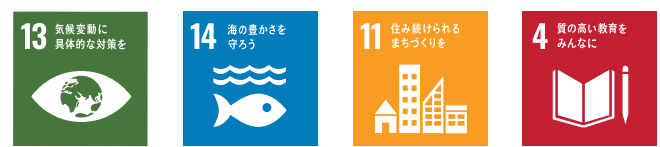
サンゴから読み解く人と環境のつながり

司会：田中 俊徳 准教授 (Q-AOS 研究推進コーディネーター)



山崎 敦子 助教

理学研究院 地球惑星科学部門



造礁サンゴは陸・海・大気と私たち人の境界域に生息しながら、環境の変化をその骨格に敏感に記録しています。樹木のように年輪を刻みながら成長する造礁サンゴは、その化学分析によって過去の水温、塩分、日射量、栄養塩、海洋に流れ込む物質の濃度を、人が体感できる時間スケール(数週間～月単位)で読み出すことが可能です。サンゴの生息期間である数百年～千年の詳細な環境情報を保持しており、観測記録の少ない熱帯・亜熱帯域において重要な環境の記録計となります。さらに化石のサンゴを用いることによって、例えば先史時代の人が生きていた環境も観測をしていたかのように読み出すことができます。本セミナーでは造礁サンゴの記録からわかってきた近年の地球環境の変化や、環境と人が相互に影響してきた歴史を、熱帯・亜熱帯域でのフィールドワークの経験を踏まえてご紹介したいと思います。

北海道大学大学院理学院自然史科学専攻博士後期課程修了。博士(理学)。サンゴ礁の形成、海の物質循環、気候変動を対象に研究しています。東京大学大気海洋研究所、GEOMARヘルムホルツ海洋研究センター、北海道大学大学院理学研究院で研究・教育に従事し、2018年に九州大学大学院理学研究院地球惑星科学部門助教に着任しました。2014年にはフィールドである喜界島に研究拠点として NPO法人喜界島サンゴ礁科学研究所を設置し、文理融合・産学民官の研究の実践に取り組んでいます。

Key Words

サンゴ
地球環境変動
熱帯・亜熱帯域

